

土木学会原子力土木委員会 リスクコミュニケーション小委員会
第6回小委員会 議事録（案）

1. 日時：2022年1月28日（金）14:00-16:00
2. 場所：Zoomによるオンライン会議
3. 出席者：奈良委員長、堀口委員、桑垣委員、中村委員、武田委員、松村幹事長、蛭沢原子力土木委員会委員（オブザーバ）、小長井原子力土木委員会顧問（オブザーバ）
4. 資料
資料1 第5回リスクコミュニケーション小委員会議事録（案）（松村幹事長）
資料2 原子力学会リスク部会・土木学会原子力土木委員会におけるリスクコミュニケーションの係わる連携キックオフ会議の議事次第（案）（蛭沢）
資料3 土木学会原子力土木委員会と日本原子力学会リスク部会におけるリスクコミュニケーションに係わる趣意書（案）（蛭沢）

5. 議事要旨

前回小委員会の議論を踏まえて、デルファイ調査をリスコミ小委員会としてどのようにまとめていくかの方向性の議論を、インタビューを含む社会との対話の方法や時期ならびに1月28日午前中に開催された原子力学会リスク部会との連携に係る会議の内容の紹介と意見出しと合わせて委員全員で行った。主な内容をまとめると以下のとおりである。

社会との対話の目的は「信頼」を得ることであり、そのために、まずは、原子力土木の専門家の存在と活動内容を一般社会の方々に認識してもらい、専門的な能力を認めてもらうことが重要であり、そのための入口として、デルファイ調査の内容と結果を論文として公表していくことが、大きな方向性として概ね合意された。

デルファイ調査の分析に関しては、「信頼」をキーワードに「リスク」と結びつけてみる、伝えたいこと（原子力全体としての意義、土木技術の現状、限界など）が見える化してみる、などの意見があった。

原子力学会との連携については、専門の土木分野だけでなく、原子力全般としての立場で物事を考えることの重要性を認識できる、デルファイ調査を通じて、原子力内部の違う専門家集団の意識を知ることができる、などの意見が出され、時期としては入口としての論文をまとめた上で、先方の理解を得ながら着実に進めるのがよい、などの意見があった。

論文の作成については、人文社会系の委員が中心となって骨子案を作成し、それをもとに、委員全員で議論することとなった。

6. 今後の予定

4月を目途に次回小委員会を開催し、論文案を中心に議論する。また、原子力学会へのデルファイ調査の説明会は3月を目途に蛭沢原子力土木委員会委員が日程調整を行う。

以上